

[013] 教育基礎学研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1906144>

出版情報：教育基礎学研究. 13, 2016-03-28. 九州大学大学院人間環境学府教育哲学・教育社会史研究室
バージョン：
権利関係：

感謝の言葉

新谷先生、ご退職おめでとうございます。本当にお世話になりました…。このような言葉ではとてもお伝えしきれない、というのは多くの学生さんたち（「元」「現役」学生さんたちも含めて…）が思っていることでしょう。

定年退職を1年後に控えられ、今年度でご退職を決心され「そっと辞めたい」、「派手なことはしないで」という先生のご希望に、そんなことでいいのだろうか…と思いながらも、おっしゃる通りにしてしまった私たちでした。これで良かったのでしょうか？

私たちの『教育基礎学研究』も本号で第13号を迎えます。新谷先生と、そしてご退職された土戸先生、野々村の3人で、教育棟玄関の前の桜の木の下で、研究室合同で研究会をしよう、教育基礎学なんていいんじゃないか、紀要も発行しよう、メンバーは広げてもいいよね、だから哲学、歴史という語は入らない方がいい…そんな会話で始まったこの会の発足と紀要発行でした。そのとき確か桜が咲いていたように記憶しています（夢、かもしれません）。それから…幾度目かの桜の季節を迎えます。その間に、教育哲学の教員として赴任した藤田が加わりました。土戸先生同様、新谷先生もこの会の永久会員ですので、今後もずっと参加いただくことになっています。

数年後にはこの会が発足したキャンパスともお別れですが、先生方から受け継いだこの会を絶やさずに守っていきます。合宿は、年々盛況となっています。現役の学生、教員のみならず、他研究室、他大学の先生方や学生、そして今では立派な研究者となった修了生たちが、全日程参加は難しくても議論に参加してきました。学問の方法は異なっても、教育なるもの、その概念、事象を根源的に問う、教育学の基礎、土台を研究する、そういう地味で無骨ながらも芯の通った研究を続けていく、そういう研究を応援する、厳しい批判や意見、議論を厭わない、教員同士も同様に…。そういう場として継続してこられたのは、先生方のおかげです。学生さんたちも、私たちもたくさん学ばせていただきました。本当に感謝いたします。

本号は、新谷先生のご退職記念号となります。土戸先生も、そして私たち現任教員2人も、そして、学生さんたちや他大学の先生もそれぞれの課題に取り組み、寄稿いたしました。投稿論文もいつもより多かったのは、新谷先生の人徳ゆえのこと、間違いありません。

なお、本号には、新谷先生の学部ゼミ、大学院社会人（夜間）ゼミで取り組まれた大正自由教育のテーマで、ゼミナリアンが投稿しています。この論文集が刊行されたら、論評会が開催されます。教育哲学研究室の<ふり>研究も、土戸先生のご退職後において深化し続けていること、この『教育基礎学研究』がその場のひとつとなっていることは、とても誇らしいことです。教育史研究もまた同様に、新谷先生から薫陶を受けた学問の真髄に、少しでも近づくために精進いたします。本号は、そのきっかけに過ぎません。

今後とも、どうか叱咤激励をお願いいたします。

平成28年3月

野々村淑子・藤田雄飛